



備前考海子
目

ホ 2
652
5 止





秘伝のらせ乃をくらあひつるかむ。日十七 杖の田のほむきえうりやうきうあき
たきりけるをこまへ一ハセ。日十六 一は次よひるつき合て細もかむれよな
かえろやまきつあつもの。日十九

こころせ 入陣。日十六 一は入まき
たつやまおこころせいし

こころちて 内言半持。日二 一は地乃ひまつうえうきわもたつこ
とをちてかふく。日八 一はた乃つものうちなるこのことら

こころ 入放。日一 一はちくもこけむ山をこころ
くもりのくろよへ一や。日十九 一はかきけいさ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 髪は白筋カ廷羸不祖羊先復加期病諺曰痛瘡灌隘短材截端此之謂也
今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

こころ 今見。日十七 一はてこころ乃さうりよあひ
こころめとろ。日三 一は姉をえうれはねこころ

○月三 さまさめは君をさぬてはこら
つらひやまめついたらこらこ
こぬひ 不見日○方七
ぬあきまぬこらこ

都雅にぬふりえはくを以○方五 梅乃花はまからくさひひ
花とあれと入酒ううへさる○風流士 風雅陶雅人ありをよ
こよへて

三世徳○方九 いにーは君が三世へつへ
けあわつればきこはちし世まをさめ
こらむ 将見○方五 いをらを忍らむ
ひと乃とーさ○ま今こま

てハツたさや
えらきさ
こらくしよしも
見さぬ○方九 ときこらにいやあつー
さく花ををりもをらにこらくしよ

こらめらつものー
○方六 ひと乃こらえつうーさふさこ
さよを吹きさうちやマちりふや

見返○方五 じやー乃をきわたりをこまほり今やきまはと
こひマろるを。枕まをくとほきさのらくまのつらさり

○方九 君なくハをうぬあさらむうけぬつけ乃をうもとら
むとさおは○日たのうぬよりけける雲をならむとなし○日九

わうぬハ雲をふりうとこ○日廿
ここと 今○方八 祢のここと○日九
たとのここと○日九 乃ここと

○あうまこく入よて
ぬりりつちるへー
ここののの
はし○方七 乃をらるー川乃るハー入しこさ
かりふつうさやーいーえーえも○日九 入きこ

乃こさかりをらをまはらを乃こもふ○古下とさかえ乃り
え乃えちれはえられに乃さうりふとせりきさろかむ
ころき

根とりてふのあまをらひてまをばあよこらきてまーを○日三
こらきてまを○日四 あまを川こらきーよけくこ
こちとや

乃守に算まをさるあは同○方四 こちをり乃とりむこへをいひやむむ
へを三つはくとちてつうつく。今和歌原のあまちりて又地名あり

そこちりりをとねさ
こつつかち祢 水洞屋○方八 梅乃につくか山あり
はくはむれうさみ大まのへまこら

めかへりハヤーとこらてこし○日本 裂化につくへらかりこし。後天平感宝元年
詔沙多知乃祖止母乃云来久海行波義西久屍山行波並年没屍より也

尔云若 死なまい。あよも火
こどりこ 嬰女見○方八 ひとりみのちこらうこ
はもあまの祢ーまぬをりへ

こらちハヤーとよちのうやあちちもさむらん○日五 ひとりこのわらこ
うこにハちちらちしのもよけかきこさふ。後は紀さふこよりこのをさる

いつら 水始 いつる 水始 ○カ十九 う乃花をくはち雨ついつるぬよもこつこ
まこむ たし ○カ十九 う乃花をくはち雨ついつるぬよもこつこ

いつぼ 水粒成借有身 ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

上沫起 着西復盆 序多加多。多沫の園方るをふとりう。古。其あま之都夫多和
時御お夫多和は現。安方集そのをいはいえ乃あはつふく。いとわ

ひら ひら ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

昔法井 昔法井 ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

お布 お布 ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

いづ 水 ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

むと むと ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

いぢ いぢ ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

きの きの ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

サ サ ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

足 足 ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

朕 朕 ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

は は ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

ひ ひ ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

は は ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

あ あ ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

い い ○カ廿 につかぬれぬ身もつかつ
ちれとちほもぬついつちとせ乃いのちを。和沫兩澄

むくら

律之方四いぢりむやきにういをもむくらよのけうーきやと入まこい久
む。日土ねりよ人こむと三りさハ主むくらけひるる危に律し、まーを

むくら

。日十九むくらもいやーきやとも天皇のまきむと三りハむらまーを。和サ得毛久良

時珍曰二月廿苗莖有刺葉對節生一葉五尖微似芭蕉麻而有細莖八月用細葉蒸

成之族結子 **むいびまら** 結松之根枝下中をむいびて律しむくつをりよ。方二

加黄麻子 有同皇子自傷結松枝二首いと一ろ乃候まつくえ

を引むいひまさきくわーいまかアーむ。白子ハ孝徳天皇之出子也。ああ天皇四年

にありろつこよりア十九葉にして糸のむ屋白坂にてわなき死一たまりろり

叶ねをむいひて律よ白けふをよたまり日長足すまき麻呂足結松哀咽作

臥いてろりや中よこつむいひまらろろもけいひりーへわらほわー

むろ乃き 天よ香樹又種。方二やせ乃ろりろのむろのよいむろにわん一

妹ハわびらえぬも。日十六むもさかりこわきろむろのよとろつめ

きとをかきえろむとめ。和種一名海柳 無良名雅控河柳之雅翼云天之將兩柳先

知之。又似柏香。こわらろろろもて天よ香樹かきてむろといへるまや

むらさき 方二むらさきハ所されよのろつといち乃八十乃ちまこにあへ

まやられ。和紫子無良教皮。式部紫よ、紫葉廿斤酢二升原二石

い。こくに根乃戻されをりーとけつあへー。後於建此よりや不流るる乃ん

ないけにたひされものには有ける。源十葉根 原ありときけふをらふう思ひ

ろめ **むのはき** 行勝之。歎名言行勝天加波波 行勝之言畏脚可跳膝種位

けむ 也。清種 赤帯在股 邪幅在下。住邪幅偏也 邪経干足

如今行勝初志東脛在股下也。日十六まこ一きこつ甘菜 **むろ** 方二

にそてこつろりにむらさきかけてやいめこ乃きみ **むら** 土むほこ

乃ちちきつうれいなむろ一きこつ天をさむろ一もかも。日十七

りー建乃ち根うまのこけむろれつわりけむとてぬきちりよ **むら** 方二

登地金名。古土むらみまにこやうろたろふ次まさやくろに律高乃つ

は 乃ちむら。方二むらみまにこやうろにりゆれと。妹くーわらんじ

ろーも。山眉乃糸もてわりーまぬ **むら** 方二

乃み次まをむらみ次まといへるあへー

○米

後をりよてにさし。方三こひさめ。日七いつちゆめ **め** 方四行月ねちれ。日土竹垣の

。日十三あひわらめを。そかいとれり **め** ああ。日十三夜乃ぬひめ

たうむやうに。日七まねら
をのほまきつらつておぼし
とちつせ。持神。方いらの川よさ
こせつまきのつらこ

徘徊。日七まねら
中やつき田の輪からにいさうにけい
ほまきつらつておぼし
本。日七まねら

まこさきこぬ。方十四
なけかむ。日七まねら
。日七まねら

乃てちつせ
本無これ何つらつておぼし
ろろのつらつておぼし

かもしとないむけむ。日七
ねりぬ人をやとちつせ
とてぬく下ちつせ

かろつまきつらつておぼし
物。ひろくつらつておぼし
はつせをいぬにこせつ

まき。日七まねら
やま。ろろつらつておぼし
乃てちつせ

乃てちつせ
乃てちつせ

きもいけちもかもしとないむけむ。日七
らあねて。日七まねら
か。日七まねら

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

十六
十六
十六

あみ

昔の泉の方かとほつとにふみ乃さうひよもつてのい。日

ふこち

夜道にコカミチもさりて
かへりすみちハスレシ

あて乃みち

四方之道にコカミチもさりて
わろちにはハ。日十九

人をも。日ニあをりしれよもの人なり
。日廿三

よみで

夜に出るコカミチもさりて
乃さるんて

アツちあめし。あ
え出といへつこ

よがら

夜鳥にコカミチもさりて
りあめれ乃

よこざり

鳴り子もさる方やまにハ
よひつこ

たききろのさきまら。日君のちにきくハ
きけもハたりぬ。日十
ほりく。日。ほれつや
こわつた。ほれつれひりき
せさら
まらぎかづき
蓮鬘曼之方大あめとさ
ひちとれと。そふ。前時記五月五日皆
百八十四

懸け上

ふうひ

懐遠の日神代あり
ひしきふくありり
はるい

勢の男のしういを
さし。日 威儀 東照 衣冠 祝儀 函仙 袷
こつちひに
いとを
一乃みは

横印。日
鹿林他
つ

大とき
四人四船にのり
うかつけ
ねしありむ
こく

ふうりぬ

四船之遣唐使のねを
大使副使料寮主曲の
夜舟にコカミチもさりて

は
此怪るし田父
鄰人隨而盜以

ふうりぬ

夜舟にコカミチもさりて

は
此怪るし田父
鄰人隨而盜以

を 大丘。古下。こややくのちつせり山のたほをいそとけりてさるにいと

けりてたほをほしちうささるわらひつあそれつゆのこや

こやをちあつぎうやてりたりも

のちもとりみちわらひつありれ

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

たほの 大川。方七。いそとけりてさるにいと

うひてころさんときらく

をうにひちをういひも

きりりやうとこ

きりりやうとこ

きりりやうとこ

きりりやうとこ

きりりやうとこ

きりりやうとこ

きりりやうとこ

きりりやうとこ

和歌露分衣

橋本稻彦大人著
加納諸平大人閱

全部五冊

古今和歌集... 奇文... 名... 志... 久...

揖取魚彦著

嘉永四年辛亥年暮秋日

大阪書肆

南久宝寺町五丁目
伊丹屋善兵衛
本町貳丁目
奈良屋長兵衛



發行書肆

江戸
名古屋
若山
京都
大阪

須原屋茂兵衛
須原屋伊八
山城屋佐兵衛
和泉屋吉兵衛
岡田屋嘉七
英樂屋大助
永樂屋東四郎
阪本屋喜市郎
蛭子屋市右衛門
田中屋治助
河内屋喜兵衛
秋田屋太右衛門
奈良屋吉兵衛

